

**第6次高浜市総合計画推進会議（第5回） 会議録**

<b>日 時</b>	平成27年8月25日（火）午後7時00分～8時25分		
<b>場 所</b>	高浜市役所 第2会議室（4階）	<b>傍聴人数</b>	6名
<b>出席者</b>	<b>委 員</b>	中川幾郎、酒井康満、井野代司彦、高桑雄司、竹内一仁、田代峯子、 内藤靖子、古橋知美、宮田克弥、神谷坂敏  (10名出席)	
	<b>行 政</b>	高浜市長 吉岡初浩 教育長 岸上善徳 市民総合窓口センター長 大岡英城 福祉部長 神谷美百合 こども未来部長 中村孝徳 都市政策部長 深谷直弘 財務グループ リーダー 内田徹 文化スポーツグループ リーダー 岡島正明 教育センターグループ リーダー 内藤克己 教育センターグループ 主幹 岡本竜生 こども育成グループ リーダー 都築真哉 地域産業グループ リーダー 板倉宏幸 市民生活グループ リーダー 山下浩二 都市整備グループ リーダー 田中秀彦 都市防災グループ リーダー 芝田啓二 地域福祉グループ リーダー 杉浦崇臣 保健福祉グループ リーダー 加藤一志 人事グループ リーダー 野口恒夫 税務グループ リーダー 鶴殿巖 行政グループ リーダー 山本時雄 企業支援グループ リーダー 平山昌秋 生涯現役まちづくりグループ リーダー 磯村和志  (22名出席)	
	<b>事務局</b>	企画部長 加藤元久 総合政策グループ リーダー 木村忠好 同 主 幹 鈴木明美 同 副主幹 榊原雅彦 同 主 査 山本久美 同 主 事 稲垣翔太 同 主 事 岡田真吾 同 主 事 加古博紀  (8名出席)	

<p>次 第</p>	<p>1 あいさつ</p> <p>2 議題</p> <p>1) 「施策評価シート」について</p> <p>2) 施策評価を振り返って</p> <p>3) 施策評価シートの提出文（案）について</p> <p>4) 今後の推進会議スケジュールについて</p> <p>5) 「推進会議による点検・確認結果」反映状況の報告について</p> <p>6) 「高浜版総合戦略」について</p> <p>3 その他</p>
<p>資 料</p>	<p>資料1：第6次高浜市総合計画推進会議（第3回） 会議録</p> <p>資料2：第6次高浜市総合計画推進会議（第4回） 会議録</p> <p>資料3：施策評価シート〔平成26年度の取組みに対する評価〕 【案】</p> <p>資料4：コメント用紙でいただいた委員からの質問内容</p> <p>資料5：第6次高浜市総合計画の推進に向けて 【案】</p> <p>資料6：第6次高浜市総合計画推進会議 今後のスケジュール 【イメージ】</p> <p>資料7：推進会議からのコメントに対する行政の考え方・対応 フォーマット 【案】</p> <p>資料8：「高浜版総合戦略」について</p>

## 1. あいさつ

会 長： 本日はご多忙の中、お集まりいただき、ありがとうございます。  
ただ今より、「第5回 第6次高浜市総合計画推進会議」を開会する。  
本日は、2名の委員がご欠席である。  
本日は、これまで実施してきた平成26年度施策評価の締めくくりということで、施策評価シートの「推進会議による点検・確認結果」欄の内容について協議・承認をいただき、会議の最後には、推進会議からの提言という形で施策評価シートの冊子を市長へ提出する。

## 2. 議題

### 1) 「施策評価シート」について

会 長： では、議題1「施策評価シートについて」ということで、まず初めに事務局において、委員からのコメントを踏まえ、シートの様式を見直した箇所があるとのことであるため、事務局から報告をお願いしたい。

行 政： 説明に入る前に、資料の訂正をお願いしたい。

机の上に置かせていただいた正誤表のとおり、資料2（第4回会議録）に誤りがある。5ページの8～10行目の行政の発言部分で、「・・・主に総合計画に掲げたことを中心に・・・」とあるが、正しくは「・・・主に総合計画に掲げたこと以外の事業を中心に・・・」である。なお、ホームページ上には、正しい内容の会議録を掲載しているのでご了承いただきたい。

それでは、シート様式の修正箇所についてご説明する。第4回推進会議において、委員から「今までの問題に加え、新たにこういった課題が出てきた」といったような、“以前との関係性が分かりにくい”という主旨のご意見をいただいた。そのご意見を踏まえ、課題解決に向けた今後の取組み（案）に掲げた内容が、新規の取組みなのか、これまでの継続の取組みなのか、また、これまでの取組みをさらに拡充・強化していく考えなのかといった旨を記載するようにした。

また、今回の資料では、第1章「はじめに」及び第2章「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」の結果については、前回提示のものと内容に変更がないため、割愛している。

会 長： ただいま説明のあった点を、ご意見を踏まえて改善したとのことであるので、よろしくをお願いしたい。

では、まずは、第3回・第4回での委員からのコメントを踏まえてシートを修正した箇所について、行政からご報告いただく。修正箇所は、網掛けで表示している。なお、修正箇所がなかった目標や、字句の修正など、軽微な修正については報告を省略させていただく。

また、資料4では、委員からコメント用紙にて提出のあったご意見の中で、「質問」と取れるものについてまとめている。該当のグループは、質問に対す

る回答についても、修正箇所の記事と併せてお願いしたい。

では、資料3の22ページ、目標(1)について説明をお願いしたい。

行政： 修正箇所としては、【CHECK】における「地域」の記事を、「地域の各種団体」と変更した。加えて、【ACTION】の(2)において、企業がまちのために行う活動を広く市民に周知する旨を追加した。

また、マイナンバー関係の記事については、高浜市において特色を持って行われる取組みではないため除外している。10月の通知カードの発送に向けて事務は順調に進んでおり、広報によるPRを10月までに4回実施する予定である。

会長： 続いて、26ページ、目標(2)に入る。シートの修正箇所はないとのことであるが、コメント用紙で1点質問が出ているので、質問に対する回答をお願いしたい。

行政： 市の事務には、戸籍事務や国民健康保険の事務、小中学校の設置・運営など、法令協定処理が義務付けられているものの他、市が任意で行う事業として、各種交付金の交付や各種まちづくり事業、各種公共施設の管理など、金額の大きさを問わずたくさんある。例えば、公共施設の管理について、建物のライフサイクルコストに占める割合は、一般的に建設費の30%であり、実際には70%がランニングコストと言われている。各種公共施設の場合、建設する際の費用のみに目が行きがちで、ランニングコストはあまり意識をされていない。しかし、施設を利用し続ける限り、コストは発生し続け、それが固定費として市の財政を硬直化させる要因の一つとなる。ところが、固定費の削減というのは、市民の皆様の理解を得るなど時間がかかる問題である。同様のことが、市が任意で行うその他の事業についても言える。市が行う事業については、予算書や決算書に事業費が記載されるが、そこには人件費は加味されていない。事業費がゼロの事業もあり、事業費だけを見て現実より低額で行っているという錯覚をして、必要以上に事業が拡大していつてしまうということが起こりうる。事業化や予算化にあたっては、予算書・決算書などに目に見える事業費だけではなく、人件費や間接費、公共施設のランニングコストに準ずるように将来負担というものが必ず付いて回るため、そういったことに裏付けられた事業化・予算化が必要であるという趣旨で記載をしている。

会長： 続いて、34ページ、目標(4)に入る。修正箇所と質問への回答について説明をお願いしたい。

行政： 修正箇所としては、【ACTION】において「地域」と記載した部分について、より詳しく併記をして連携相手を明確にした。

質問の1点目について、カレンダーは幼稚園・保育園・小学校の他に、各まちづくり協議会、各公民館、図書館、かわら美術館、エコハウス、勤労青少年ホーム、体育センター、武道館に設置している。

質問の2点目について、教員の声は各学校の自己評価という形で集約してい

る。集約した声は、各学校が自校の取組みと反省に活かしているが、その集約を今回の分析とは関係付けてはいない。

会 長： 続いて、38ページ、目標（5）に入る。修正箇所と質問への回答について説明をお願いしたい。

行 政： 修正箇所としては、【ACTION】の取組み（案）の記載内容を分かりやすく区分けし、子育て中の親子が安心できる居場所づくり推進のため、「子どもに関係する団体等に働きかける」という文言を加えた。また、各種子育て支援情報の具体例を明記した。

質問の回答としては、昨年度、子育て支援ネットワークポータルサイトに関するアンケート調査を実施し、60%の市民がポータルサイトの存在を知らないという回答であったため、ポータルサイトのPRが必要という課題が出てきた。その課題解決のため、PRチラシを配布したり、商工会員を対象に新しく作成したポスターを配布し、従業員向けのPRを行っていただいたりした。

会 長： 続いて、42ページ、目標（6）に入る。修正箇所と質問への回答について説明をお願いしたい。

行 政： 修正箇所としては、【ACTION】（2）と（3）を修正し、行政が担っているのか、それとも団体体制の支援を行っているのかということを確認にした。また、「地域」と記載した部分については、具体的にどの団体と連携するのかを明記した。

質問の1点目については、コミュニティ・ビジネスのチャレンジャー発掘のため、公募を行いながら、委員や市のグループからの推薦などにより地域で活躍されている人材の方に声掛けをし、それぞれの抱く目的の具現化と地域課題の解決を結び付けていく。今後も従来の募集方法を継続しながらも、他のグループが実施するワークショップ等に出ている地域の課題等を結び付けながら、連携して人材発掘ができないかと考えている。

質問の2点目については、イベントの来場者数として集計するものとしては、高浜市観光協会が主催する「鬼みちまつりの来場者数」と「かわら美術館の来場者数」をカウントしている。鬼みちまつりは1時間ごとに10分間往來する来場者をカウントとし、かわら美術館については、特別展・常設展などの展覧会の観覧者、陶芸教室等の参加者数を来館者としている。来場者の市内・市外の別については、鬼みちまつりでは把握していないが、ランプシェードの制作など、市内の商工業者の出展等も踏まえて、市民イベントの位置付けが大きいこともあり、市民の来場者が多いと考えられる。かわら美術館については、中学生以下のチケットについては市内・市外の把握は可能であるが、高校生以上の一般観覧者については、市内・市外の把握はできない状況である。

質問の3点目については、窯業関係の法人市民税の調定額と、三州瓦屋根工事奨励補助金は相関関係があり、法人市民税の納付額が上昇すれば、奨励補助金も上昇するという関係が見られる。これは、住宅の着工件数にリンクしての

影響であると考えている。ただ、実際には、東日本大震災による風評被害や、消費税増税による、駆け込み需要等の着工件数に影響があり、着工件数の減少などが見られる。市としてもそれまでのイメージを払拭するため、奨励補助金等を市内で活用していただくこと、瓦の良さを知っていただくことを大切な地場産業への支援と位置付け、全面的にバックアップしていく。

会 長： 続いて、46ページ、目標（7）に入る。修正箇所について説明をお願いしたい。

行 政： 修正箇所については、【ACTION】において、「検討する」という記載をより具体的に明記した点である。

会 長： 続いて、54ページ、目標（9）に入る。修正箇所と質問への回答について説明をお願いしたい。

行 政： 修正箇所については、【ACTION】の（1）市が作成する地震防災マップの裏に添付されている「わが家の防災メモ」を活用する旨を追加した。（3）では、中学生に対する交通安全教室や、自転車運転者講習制度に関する記載を追加した。

質問への回答としては、各町内会にデータを配布しているため、情報共有をしていただきたいと考える。避難行動要支援者のデータについては、同意を得られた方の名簿が、地域福祉Gから既に町内会・まち協・民生委員に配布されている。

会 長： 続いて、58ページ、目標（10）に入る。修正箇所について説明をお願いしたい。

行 政： 修正箇所については、【CHECK】及び【ACTION】において、「地域」と記載した部分を、具体的な団体名を記載するようにした。また、困りごとを抱えながらも相談に来られない方への支援の点を、【ACTION】に記載した。

会 長： では、次に、「推進会議の点検・確認結果」欄の確認に移る。なお、ただいま行政からご報告いただいた修正箇所についてのご意見・ご質問等は、これから目標ごとに行う確認の際に、併せて賜りたい。

まず、24・25ページの目標（1）である。他に付け加えることはないか。  
（意見・質問等なし）

では、目標（1）の点検・確認結果については、原案のとおりでよろしいか。  
（異議なし・承認）

次に、29ページ、目標（2）である。他に付け加えることはないか。  
（意見・質問等なし）

では、目標（2）の点検・確認結果については、原案のとおりでよろしいか。  
（異議なし・承認）

次に、32・33ページ、目標（3）である。他に付け加えることはないか。  
（意見・質問等なし）

では、目標（3）の点検・確認結果については、原案のとおりでよろしいか。

(異議なし・承認)

次に、37ページ、目標(4)である。他に付け加えることはないか。

(意見・質問等なし)

では、目標(4)の点検・確認結果については、原案のとおりでよろしいか。

(異議なし・承認)

次に、40・41ページ、目標(5)である。他に付け加えることはないか。

(意見・質問等なし)

では、目標(5)の点検・確認結果については、原案のとおりでよろしいか。

(異議なし・承認)

次に、44・45ページ、目標(6)である。他に付け加えることはないか。

委員： 一点、依頼事項であるが、東日本大震災の被災地である宮城県名取市の閑上地区に、今年慰霊碑が立った。その慰霊碑に、三州瓦のランプシェードを寄贈しようとして計画している。寄贈のための予算として50～60万円必要であるため、既に都市防災G・鬼みちまつり実行委員会に依頼しているが、寄付を募りたい。加えて、今年の鬼みちまつりで名取市の特産品の即売会をやろうという計画もあるため、皆様のご協力をお願いしたい。

会長： ただいまのご意見は、コメント欄の修正ということではなく、情報提供として解釈させていただく。

では、目標(6)の点検・確認結果については、原案のとおりでよろしいか。

次に、48・49ページ、目標(7)である。他に付け加えることはないか。

(意見・質問等なし)

では、目標(7)の点検・確認結果については、原案のとおりでよろしいか。

(異議なし・承認)

次に、52・53ページ、目標(8)である。他に付け加えることはないか。

(意見・質問等なし)

では、目標(8)の点検・確認結果については、原案のとおりでよろしいか。

(異議なし・承認)

次に、56・57ページ、目標(9)である。他に付け加えることはないか。

委員： 55ページ【CHECK】欄の指標1)の分析における指標が増加した要因として、“町内会やまち協の活動による”という趣旨の文言を加えていただきたい。

質問であるが、【ACTION】の(1)「共助」の強化として書かれている「防災リーダーの養成」とは、防災ネットきずこう会の取組みのことか。

行政： まず、質問については、委員のおっしゃるとおり、防災ネットきずこう会の取組みのことである。

なお、提案についても、委員のおっしゃる趣旨を加えさせていただきたい。

会長： 提案に対する記述として、「自助及び共助として、町内会・まち協の活動による災害への対応が・・・」と変更してはいかがかと考える。

では、目標（９）の点検・確認結果については、ただいまの修正を加えた形でよろしいか。（異議なし・承認）

次に、６０・６１ページ、目標（１０）である。他に付け加えることはないか。（意見・質問等なし）

では、目標（１０）の点検・確認結果については、原案のとおりでよろしいか。（異議なし・承認）

次に、６４・６５ページ、目標（１１）である。他に付け加えることはないか。（意見・質問等なし）

では、目標（１１）の点検・確認結果については、原案のとおりでよろしいか。（異議なし・承認）

最後に、６６・６７ページ、目標全般に関するご意見である。他に付け加えることはないか。（意見・質問等なし）

では、目標全般に関するご意見としては、原案のとおりでよろしいか。（異議なし・承認）

では、事務局は、ただいまご意見のあった部分を修正して冊子を完成させていただきようをお願いしたい。

## ２）施策評価を振り返って

会 長： それでは、「議題２ 施策評価を振り返って」ということで、施策評価が一段落したことから、施策評価を振り返っての感想や、改善点等について今お感じのことについて、委員お一人おひとりからご意見を頂戴し、今後活かしていきたい。

委 員： 今回委員として初めて参加させていただき、行政から丁寧な説明があったにもかかわらず、理解できない部分も多くあった。

総合計画という枠の中で事業を行う職員の方にとっては、楽しい仕事だったのではないかと。考えて実施した取組みの成果が、市民意識調査として跳ね返ってくることは、とてもやりがいのあるシステムであると感じた。

委 員： 資料を作ることは大変なことであるが、具体的なものになればなるほど、より良い仕事につながると思う。行政においては、これを基にしながらこれからも取り組んでいただきたい。

委 員： これまでの資料を見ながら、その内容を理解しようと努力することに精一杯であった。今後も委員として関わらせていただくことをうれしく思う。

委 員： 【PLAN】に書かれていることが課題であるように思うため、【PLAN】と【DO】のつながりに少し理解に苦しむ面もあった。また、【DO】に出てきているいろんなことが反省された上で、【ACTION】として出てくると思うのだが、どう反省されて【ACTION】につながったのかが見えないため、評価がしづらい面があった。

委 員： 文章が全体的に長く、強調する下線にも統一性がないため、整理してはどう



か。また、Ⅲ－１「市民意識調査結果」のグラフの部分で、前年度との比較のため、前年度数値を横に並べてはどうかと感じた。

委員： 当初からお願いしていた「若い職員の意見を取り入れたシートの作成」について、積極的に取り組んでいただきありがたく思う。市の職員の知識やノウハウが、今まで以上に大きくなったのではないかと思う。シートを作るために文字にすることはとても大変なことで、ご苦勞をかけたことと思うが、我々市民とともに高浜を今以上に良くしていきましょう。

委員： 市民意識調査の結果をもっと正確なものとするため、市民意識調査の範囲を広げたり、回収率を上げるための方策を講じていただきたい。

委員： 今後の取組みとして掲げた内容を、いかに管理してどうアクションにつなげていくのかが見えない部分が多く心配である。管理をどうするのかをしっかりと決めておかないと、絵に描いた餅になってしまう。また、「こうしたい」という意味合いしか書かれておらず、手段・方法が一切載っていない箇所も多く見受けられる。

委員： 本日も貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。

行政の世界では、行政評価が一時期ブームになり、ベンチマークを設定してその改善を図っていくという考え方がずっとあった。そのベンチマークが「みんなで目指すまちづくり指標」であるが、その設定は難しく、前期の時から指標を変えた部分もある。施策評価の手法についてはまだまだ試行錯誤であるため、委員の皆さんのご意見をいただきながら、より進化をさせていきたいと考えているので、ご協力をお願いしたい。

会長： 「できるだけ文章を簡潔に」という部分と「下線の統一」については今後検討していただきたい。

PDCAの対応関係、いわゆる【PLAN】で掲げたことが実現されるために【DO】が展開される、その【DO】に対して評価を行う【CHECK】がある、そこで出てきた課題に対して【ACTION】を起こす、そういう流れになるが、それがうまく対応していないのではないかというご意見もあった。確かにそういう点も見受けられるため、次回以降、その対応関係をつかまえておくことが大切である。決して皆さんの仕事をけなすつもりではない。行政は今行っている仕事に合わせて体系を作るクセがある。でもそれは通らなくなってくるので、掲げた理念を実現するための戦略、具体的には施策・戦術の連続関係が見えないというご指摘であったかと思う。【PLAN】を作るためにもPDCAを回さないといけない。【DO】をするためにも、どう【DO】するかのPDCAを回さないといけない。【CHECK】をするためにも、どういった【CHECK】をするかのPDCAを回さないといけない。

また、委員からのご指摘は、目標意識かたや理念は、単なる絵空事ではなく“明確なビジョンを持ってこうするぞ”という決意がなくてはならない、という趣旨であると受け止めた。企業の方が絶対に明確である。3年以内に黒字転

換しないと会社がつぶれるとか、上場廃止になるなど、そういう基準がはっきりしている。期日を限定した目標意識を持ってほしい、とおっしゃっているように理解した。

私個人としては、前回「地域という言葉の乱用するな」と苦言を呈した。地域の具体的な主体を明記しなければ、単なる風景を言っているにすぎないという点についてはご理解いただきありがたく思う。

### 3) 施策評価シートの提出文(案)について

会 長： それでは、議題3「施策評価シートの提出文(案)について」に入る。

ただいま、ご意見をいただいた施策評価シートの冊子を、この後市長の方へ提出するわけだが、提出の際につける鑑の文章の案について、事務局が作成したので、事務局から読み上げていただく。

行 政： 資料5をお願いしたい。それでは読み上げる。

第6次高浜市総合計画の推進に向けて

「第6次高浜市総合計画推進会議」においては、総合計画 中期基本計画に掲げる11目標の達成に向け、平成26年度に行政が実施した取組みが有効な手段であったか、また、取組みから見えてきた課題を的確に捉え、課題解決に向けた今後の取組みに反映されているかなどについて「点検・確認」を行い、別添のとおり「第6次高浜市総合計画基本計画【中期】施策評価シート〔平成26年度の取組みに対する評価〕」をとりまとめました。

つきましては、将来都市像「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」の実現に向けて、本評価シートをアクションプランの見直し、及び、来年度予算検討にあたっての参考資料として活用され、目標達成に向けてその歩みを着実に進められることを切に願います。

会 長： ただいま、読み上げていただいたが、言い回し等、直した方がいいといったご意見があればお願いしたい。(意見等なし)

では、原案どおりということによろしいか。(異議なし・承認)

### 4) 今後の推進会議スケジュールについて

会 長： それでは、議題4「今後の推進会議スケジュールについて」事務局より説明をお願いしたい。

行 政： 資料6をご覧いただきたい。

今年3月に開催した第1回推進会議において、年間のスケジュールについてお示しした。26年度の施策評価については一段落したが、改めて今後の進め方について再確認したい。

まず、本日第5回推進会議において、この後市長へ「点検・確認結果」を提出する。その後、行政においては、次年度のアクションプラン案や当初予算案の作成作業に入っていくが、これらと並行し、推進会議で委員の皆さまからい

ただいたご提案やご意見を、今後の施策や、次年度の当初予算案にどう反映させていくか、といった返しのシートを作成し、次回第6回推進会議において発表をさせていただく。行政がどういった観点で報告・発表をしていくのかについては、資料に記載のとおりだが、詳細については次の議題5の中で説明する。

委員の皆さまからご意見をいただき、ご意見を踏まえて修正を加えた反映状況のシートは、1月下旬に公表する予定である。

そして、今年度最後の推進会議として予定している第7回推進会議では、今年度の推進会議の振り返りとして、点検・確認作業、施策評価の方法や進め方についての課題・成果などを振り返り、ご意見をいただき、次年度の推進会議運営に活かしていきたいと考えている。

なお、本日の会議の最後には、次回第6回推進会議の日程を確定させたいと考えているのでよろしくお願ひしたい。

会 長： ただいま事務局から説明のあったスケジュールについて、ご質問などがあればお願ひしたい。

(質問等なし)

会 長： では、事務局におかれましては、このスケジュールに沿って事務を進めていただくようお願いしたい。

#### 5)「推進会議による点検・確認結果」反映状況の報告について

会 長： それでは、議題5「『推進会議による点検・確認結果』反映状況の報告について」に入る。事務局より説明をお願ひしたい。

行 政： 資料7をご覧いただきたい。

ただ今の議題4でもご説明したとおり、推進会議で委員の皆さまからいただいたご提案やご意見を、今後どう反映させていくか、といった返しの発表を、次回第6回推進会議で行う予定をしている。

発表の際の参考資料となるシートのフォーマット(案)が資料7になる。サンプルとして、ご意見を多くいただいた目標(6)を資料としているが、委員の皆さまからいただいたコメントを、大きく「提案」と「感想・意見」の2つに分け、それぞれに対する行政の考え方と対応(案)についてまとめていく。

行政の考え方と対応(案)の発表に際しての観点として、まず「提案」のコメントに対しては、取組状況としてA. 既に実施している B. 一部実施している C. 次年度に実施予定 D. 実施しない の4つに分け、その下の「具体的な取組内容」欄に、今後いつ、どんなことに、どういった流れで取り組んでいくのか、また、実施しない場合はその理由・考え方、代替案などについて記載をする。また、その下の欄には、コメントに関連するアクションプランを記載し、発表は担当グループのリーダーから行う。

また、「感想・意見」のコメントに対しては、感想・意見をどう受け止め、今後どんなことにどういったふうに取り組んでいくのかについて、発表を行

う。

議題でもご説明したとおり、シートの内容は、委員の皆さまからのご意見を踏まえて修正を加え、最終的には1月下旬に公表を予定である。

本日は、委員の皆さまから、お示ししたシートのフォーマット（案）について「もっとこうした方が良いのではないか」といったご意見をいただき、フォーマットを確定させるとともに、「こういった観点での発表が聞きたい」といったご意見も伺えればと考えている。

会 長： ただいま事務局から説明のあった内容について、ご意見などがあればお願いしたい。

委 員： 資料を見ると、②③④のコメントに対して一つの回答欄しかないが、これはどういったことか。

行 政： 一つのアクションプランに対して、コメントをいくつかいただいた場合、一括りとしているが、それぞれのコメントに対して今後の対応（案）が異なる場合もあるため、一つのコメントに対して一つの回答欄を設けるようにしたい。

委 員： 「感想・意見」に対する行政の考え方・対応（案）についても、「取組状況」欄を設けても良いのではないか。感想ではあるが、将来はどうするといったことが明確になるのではないか。

行 政： 内部で検討させていただく。

## 6)「高浜版総合戦略」について

会 長： それでは、議題6「高浜版総合戦略について」に入る。事務局より説明をお願いしたい。

行 政： 資料8をご覧ください。

国でよく言われている「地方創生」の取組みとして、国は「まち・ひと・しごと総合戦略」を作り、人口減少に少しでも歯止めをかけていこうという動きを進めている。これは各自治体においても同様で、将来的な人口減少や高齢化の進展に備えて、それに向けた取組みを考えるべく、地方版の総合戦略を策定することとなっており、高浜市においても「高浜版総合戦略」を現在策定をしている。その中で、高浜市の総合戦略の基本的な考え方として、第6次高浜市総合計画の実現が高浜市の創生につながると考えている。総合戦略の中で国は、自治体において策定する時に、住民をはじめ産業界や金融機関、教育機関など様々な分野からの意見を反映するように言っている。第6次高浜市総合計画を見てみると、その策定にあたっては、総合計画審議会や未来を描く（創る）市民会議によって、多くの市民の皆さまのご意見を聞きながら策定がされており、見直し・検証も推進会議においてしっかり行われている。総合計画の中には、産業分野の雇用を生み出して、高浜への人の流れを生み出すようなアクションプラン・取組みも書かれているし、出生率を上げるような子育て施策アクションプラン・取組みも書かれている。そういったことを着実に実行していく

ことが、高浜市の将来的な人口減少・高齢化の進展といったものに有効になってくると考えている。全く新しいものを「高浜版総合戦略」として作るということではなく、+αがあるかもしれないが、総合計画をベースにしながら、また、推進会議委員の皆さまからいただいたご意見をエッセンスとして総合戦略の中に盛り込んでいく形で策定しているので、その状況を報告させていただいた。

会 長： ただいま事務局から説明のあった内容について、ご質問などがあればお願いしたい。

委 員： +αは、総合計画の外にあるのか。+αになったらアクションプランに組み込むという意味で良いか。

行 政： 基本的な重要な施策になってくるため、たとえ当初外れていたとしても、ゆくゆくは入ってくるようなものになってくると考えている。

委 員： 策定にあたっては横のつながりが非常に大切になってくると思われるが、体制的にはどういうふうに考えているか。

行 政： ベースとしては総合計画があるため、そこに新たな会議体ということは考えていないが、総合戦略を考えていく中で、各部署長で構成されている会議体があるため、そこで横の連携を図れるよう、風通しをよくしていきたい。

会 長： では、事務局は、引き続き策定作業を進めていただくようお願いしたい。

### 3. その他

会 長： 以上で、全ての議事は終了した。

その他に入るが、まずは次回第6回推進会議の日程を確定させたい。事務局に一度お返しする。

行 政： 次回第6回推進会議の日程について、11月13日（金）午後7時からはいかがか。ご都合の合わない委員は挙手をお願いしたい。

（挙手なし）

行 政： それでは、次回第6回推進会は11月13日（金）午後7時から開催する。日程が近付いたら案内文書を送付する。

会 長： それでは、いよいよこれから施策評価シートの提出となるが、最後に、委員の皆さんの想いを受けて取組みを進めていく行政へのエールなどを、皆さんから一言ずつ述べていただきたい。

委 員： 大変だと思うが、市民のために頑張ってください。

委 員： 大変だと思うが期待している。

委 員： 皆さんの頑張りが高浜を良くしていく。市民の一人として我々も頑張りたい。

委 員： 作るからにはより良いものにしていきたい。今後ともよろしく願いしたい。

委 員： 施策評価をしたら終わりかと思っていたが、点検・確認結果の反映状況につ

いての回答もしていただけるということなので期待したい。

委員： 結果が見えてくる仕事であるため、楽しく進めていただきたい。

委員： 職員の方の努力には頭が下がる。市民の声に耳を傾けていただける職員の方がとても多いと感じるため、今後とも期待したい。

委員： こういったシートを作ることは、非常に勉強になるため、ぜひ頑張っていたいただきたい。

委員： 温かいお言葉をいただきありがとうございます。

10・20年後の高浜のために、今何をすべきかということを考えながら進めていく。今後ともよろしくお願ひしたい。

会長： 大変細かい作業をしていただきありがとうございます。

初めから申し上げているが、委員は決して批評・文句を言うだけの存在ではいけない。この場は、住民の経営者化を進めるトレーニングの場にもなるし、そういった市民は、将来の高浜にとってのお宝市民にもなる。推進会議がそういった人を増やしていく一つとして機能してくれたらと思う。行政職員の中には、縦割りの専門局的な専門知識を獲得する行政職員になりたがる職員も多いが、もっと職員が市民化・生活者化し、「自分は建築の専門しか分かっていないつもりでも、年金のことだったらこれぐらいのことなら答えられます」というような職員の総合化・市民化が必要である。その前にもっと地域社会と溶け込み、市民の生活にしっかりと沿いながら、常に自分の専門性と総合性を取り直していくという歩み寄りがお互い大事ではないか。

小さな自治体になればなるほど、職員の総合能力は高くなるというデータが出ている。大きな自治体の職員が、小さな自治体の職員に地位を逆転されているような学歴の自治体も全国的傾向である。市町村の職員の方が優秀だった。この教訓をどう考えるか、今回高浜でその大部分が証明されてきたと思う。高浜は非常に機動力のある市民が多く、市民のアクション・レスポンスビリティの高いまちであるため、油断なく進めていただくようお願いしたい。

行政： 皆様本当にありがとうございました。それではここで、市長の方に総括の提出をお願いしたい。

(会長：提出文を読み上げて市長へ渡す)

(渡しているところの写真撮影)

それでは、市長から、委員の皆様にお礼を申し上げます。

市長： 総合計画中期の推進のための、我々の活動に対して確認・チェックをしていただき感謝申し上げます。加えて、施策を評価するシートの問題、我々は何を基に、どう皆さんにお伝えしようとしているのか、その手法にまで触れていただいた。我々はそれを進化させていく必要があると感じた。「アクションが行動になっていない」というご指摘は、職員の胸に響いたのではないか。どんな場合であってもアクションはアクションである必要があると改めて思った。

今日は総合戦略の話も出た。国が今進めようとしている中で、高浜市では、

例えば総合計画を進捗させていく手法であるとか、教育であれば教育大綱を作れという中で、基本構想を作ってきたこと、総合管理計画を作れという中で、一早く庁舎・公共施設等の計画に取り組んできたこと、介護保険が変わっていく中で、相互事業に近い形で取り組んできたことなど、先進的に取り組んできたことも多い。国が新たにやってくれと言っても、既に取り組んでいることにどう手を加えていくのかというやりにくさが生じている。それは職員が努力をしてきた結果であるし、皆様方の適切なお助言のおかげである。改めて、高浜市をどう運営していくかを皆さんと一緒に考えていく必要があると感じ、そのためには、着実に一步一步進めていきたいと考えているため、今後ともご助言・叱咤激励をお願い申し上げ、お礼のあいさつとさせていただきます。

行政： では最後に、委員の皆さんの想いを受けて、前期から中期にしっかりとつなげていくぞという想いを込め、記念撮影を行いたい。

(委員、市長写真撮影)

(撮影後、解散)

#### 【会議のようす】

